

令和4年度第1回岡山市総合教育会議

日時：令和4年5月20日（金）

場所：市庁舎 第3会議室

午後3時30分 開会

○司会 定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第1回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は、全員のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望がありますが、入室を許可してよろしいでしょうか。

○市長 よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 はい、お願いします。

○司会 それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしく願いいたします。

○市長 それでは、議事に移らせていただきます。

本日の会議は、岡山県から伊原木知事と鍵本教育長に出席いただく予定です。協議に入ります前に、今回が初めての出席となる上西教育委員からご挨拶をお願いいたします。

○上西教育委員 上西と申します。昨年の12月から委員を務めさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○市長 ありがとうございます。

また、本日は、岡山市中学校長会の長瀬会長、そして岡山市小学校長会の高山会長にもご出席いただいております。学校現場における取組やご提案など、幅広くご意見をいただければと思います。両会長も本日が初めての出席ということで、自己紹介をお願いいたします。

まずは長瀬さん、お願いいたします。

○長瀬中学校長会長 はい。失礼いたします。

本年度、岡山市中学校長会の会長を務めております岡山市立竜操中学校の校長、長瀬尚樹と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○市長 ありがとうございます。

高山さん、お願いいたします。

○高山小学校長会長 失礼いたします。

本年度、岡山市小学校長会の会長を務めさせていただいております岡山市立吉備小学校の校長の高山学と申します。どうぞよろしく願いいたします。

○市長 ありがとうございます。

それでは、伊原木知事と鍵本教育長をご案内していただければと思います。

[伊原木知事、鍵本岡山県教育長入室]

○市長 どうぞお座りください。

伊原木知事、鍵本教育長、今日はわざわざお越しいただきましてありがとうございます。

それでは、協議に入りたいと思います。

若干の経緯を申し上げますが、昨年11月、私と知事との懇談会がございました。その場でお互いの総合教育会議に出席をしようということになりまして、去る5月9日、県の総合教育会議に私と菅野教育長が出席させていただいたところでありまして、本日は、岡山市の総合教育会議に伊原木知事、鍵本教育長をお招きしているところでありまして。

まず初めに、先日、岡山県の総合教育会議で説明させていただきました県の教育、目標に関する岡山市の考え方について、菅野教育長からお話を申し上げたいと思います。

○菅野教育長 岡山市の教育長の菅野でございます。

参考と赤い字で記載しております岡山市の目指す学校教育、3枚ものの資料をお出しください。

県の総合教育会議におきましては、この資料を基に、岡山市が目指す学校教育推進のために、岡山県の施策、事業が岡山市立学校に適用されていないことを明確にさせていただきたいこと、岡山県の計画の目標や指標から岡山市立学校を除いていただきたいことをお伝えをしたところでありまして。

その大きな1つ目の理由としましては、岡山市は政令指定都市であり、岡山市立学校の教職員の給与等の財源及び人事、学級編制、研修等、全て自前でやっております、子どもたちに必要な力を育むための教育施策に責任をもって取り組んでいるためであります。また、2つ目の理由として、教職員や保護者が混乱を招くことを避けなければならないと考えているためであります。

岡山市では、校長会と連携し、総合教育会議でも繰り返し議論しながら、未来を担う子どもに力を育むために必要な目標や指標を設定して取り組んでいるところでありまして、

県の指標設定では岡山市との事前協議はございませんでしたし、その考え方も異なりま
す。そのため、私からは、県には指標などの数字のもつ意味を考えた上で、原則として岡
山市を除いた部分で発表していただきたいと思っているところであります。特に全県下で
発表されたいとお考えの場合は、ご相談いただければと思います。

岡山市立学校の子どもたちのために必要な施策、事業を実施できますのは、岡山市で
ございます。ですから、我々は、責任をもって施策や事業に取り組んでいます。子どもたち
のために、岡山県とは互いに切磋琢磨しながら教育施策を進めてまいりたいと思ってお
ります。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

今の菅野教育長の説明に関しまして、知事と鍵本教育長からお話をいただければと思
います。

その前に、私のほうからも一言、お話を申し上げたいと思います。

我々、子どもたちに対する教育に関して、計画、目標をできるだけシンプルにやってい
かなければならないというように思っています。そして、例えば岡山市の計画、目標、また
岡山県の目標などが2つ存在するという事は、ダブルスタンダードになってまいりま
す。これは混乱を招きかねないということで、避けていかなければならないというように
思っております。先ほど菅野教育長が説明したように、我々としては県の計画、目標から
岡山市分を外していただけないかということをお話ししました。そこが合意に至らなかつ
たのは、私としては非常に残念であります。その際も少し議論になりましたけれども、県
の計画、目標づくりで岡山市分を含めるとおっしゃったその根拠は一体何だろうかとい
うことをお話しいただければと思います。

また、そこで定められている計画、目標、これはどのような手段で実現するおつもりな
のか、これについてもお示しいただければありがたいと思います。

まずは、知事からお願いいたします。

○伊原木知事 岡山県知事の伊原木でございます。

本日、このような機会を与えていただきまして本当にありがとうございます。

昨年11月の岡山市との懇談会におきまして、大森市長からそれぞれの総合教育会議に出
て率直な意見交換をするのはどうかとご提案がありましたことを受け、大森市長には先
日、県の総合教育会議にご出席いただきましたが、本日は私が市の総合教育会議にお邪魔

させていただいている次第でございます。なかなかめったにない貴重な機会でありまして、本当にありがとうございます。

私、知事就任以来、教育は本県発展の礎であると信念をもちまして、県政に取り組んでいるところでございます。本格的な人口減少や技術革命など、社会が急速に変化する中、子どもたちは将来の夢や目標をもちながら、読解力、表現力、情報活用能力、また他者と協働して新しい解や納得解を生み出す力など、予測困難な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質、能力を着実に身につける必要があると考えております。このため、学ぶ力の育成や徳育、体育の推進に取り組むとともに、ICTを活用した教育の促進や海外との積極的な交流などに取り組むことで、県内外の様々な分野で主体的に活躍できる人材や、他者と協働しながら新たな価値を生み出し、本県の持続的発展に貢献できる人材の育成を図ってまいりたいと考えております。

県全体を預かる立場として、県全体の教育の方向性を示すことは私の重要な役割であると考えております。ただ、こうしたことは県の取組のみで達成できるものではなく、義務教育の直接の実施主体である市町村とは、県全体の発展に資するよう、情報共有や意見交換を通じた連携強化を図りたいと考えております。

特に政令指定都市である岡山市とは一層の連携が重要であり、岡山市の教育の取組は、施策やそれに基づいた指標の細かな部分は違いますが、学力の向上や不登校対策の充実、さらには予測困難なこれからの時代を生き抜いていくための生きる力を育むことの重要性など、大きな方向性は県と同じであると認識しておりました。しかしながら、先日の私どもの総合教育会議で市長から、岡山市は他の都市、他の地域と生活実態が違う、また混乱が起きるとのご指摘がありましたので、今後は両教育委員会の間で協議の機会をもって、どのような点で生活実態が違うのか、どのような混乱が起きるのかなど、しっかりと教育現場の実態や推進している施策について情報交換をさらに進め、次のプラン策定に向け何ができるのか検討していきたいと考えております。

そのためにも、まず本日の岡山市の総合教育会議に出席させていただいたことをよい機会として、教育委員の皆様からもご意見をお聞かせいただきたいと思いますと考えております。本日はどうぞよろしく申し上げます。

○市長 知事、どうもありがとうございました。

では、鍵本教育長、お願いいたします。

○鍵本教育長 岡山県教育委員会の教育長の鍵本でございます。どうぞよろしくお願いを

いたします。

本日はこのような貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。

今、知事からお話がありましたように、県教育委員会といたしましても、人事や給与負担など様々な権限をもつ政令市であります岡山市教育委員会との協議の機会を十分にもって、教育現場の実態や推進している施策について、さらに情報交換、協議を進めてまいりたいと存じます。また、先般、私どもの総合教育会議で菅野教育長から様々な広報の場面で十分な検討が必要だというご指摘をいただきましたので、この点につきましても、十分に注意を払いながら、岡山市教育委員会と連携を図らせていただきたいと思います。

本日は、私から、県教育委員会といたしまして、本県の教育行政の取組の方向性について説明をさせていただき、ご理解をいただきますとともに、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

資料でございますけれども、1枚ものの資料がお手元にあるかと思います。ご覧いただければと存じます。

岡山県では、県政の総合計画でございます第3次晴れの国おかやま生き生きプランや教育に関する個別計画であります第3次岡山県教育振興基本計画に基づきまして各種教育施策を推進しており、これから申し上げます3点を最重要項目として取り組んでいるところでございます。本日はお時間も限られておりますので、この3点について説明をさせていただきます。

まず、確かな学力の育成についてであります。子どもたちが自己実現を図るために必要な学力を確実に育成するため、学校訪問による校長先生方の学校経営の支援や、定期的な学力調査の実施による一人一人の学習状況の的確な把握と分析、そしてその分析に基づいた授業改善の一層の推進等によりまして、子どもたちの学ぶ力を育む、学力の確実な定着を図っているところでございます。

次に、不登校を生まない魅力ある学校づくりについてでございます。不登校に対する学校の組織的な対応の徹底や、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家の活用、関係機関との連携を推進をいたしまして、子どもたちの学習支援や生活支援を徹底することで不登校を生まない魅力ある学校づくりを推進しております。また、落ち着いた学習環境の整備については、学校警察連絡室の取組を岡山市教育委員会と一緒に行うことで暴力行為の発生件数が減少するなどの成果も出ており、今後も力を合わせて取組

を進めてまいりたいと考えております。

第3に、夢を育む教育の推進についてであります。岡山市の教育大綱におきましても同様なことが指摘されておりますが、先を見通すことが難しい社会で生きていくためには、直面した課題に対して他者と協働しながら主体的に解決していく力が求められることから、自らの夢を育み、それに挑戦していく教育を推進する中で、失敗することも含めて様々な経験を積んでいくことによって、意欲や忍耐力、コミュニケーション力などのテストでは測ることのできない非認知能力を高める取組を進めているところであります。

こうした力とともに、義務教育段階において取り組んでおられますICTを活用した創造性を育む学びを、県教委として所管しております県立高校においてさらに伸ばしますとともに、海外との積極的な交流などによって、グローバルな視点をもって県内外の様々な分野で主体的に活躍できる人材や、他者と協働しながら新たな価値を生み出し、本県の特長的発展に貢献できる人材を育成しております。

引き続き岡山市教育委員会とは連携を図りながら、子どもたちのために教育の充実を共に図ってまいりたいと存じます。

私からの説明は以上でございます。

○市長 鍵本さん、どうもありがとうございました。

今、伊原木知事、鍵本教育長からお話がありました。その前に菅野教育長からも説明をさせていただきました。

委員の皆さん、また小・中学校の校長会の会長の皆さん、何か意見がございましたらお願いいたします。質問でも結構です。

よろしいですか。

ちょっと私からお話をさせていただいていいでしょうか。先ほど知事から県全体を預かる立場というお話をされました。我々、地方自治体間の役割分担というのは、法律によって決まっております。それは、県と政令指定都市の間もそうであります。全ての行政が県に責任が集中しているということではなくて、行政の内容によって、一つの一つの行政によって法律で役割が決められているところであります。したがって、県全体を預かるという立場のものもあるかもしれませんが、そうでないものも私は多いだろうというように思っております。その最たるものが、本日の話題となっている教育の問題であります。教育については、法律上、そして先ほども出ました、例えば目標を定めてそこに予算を集中していく、そういった予算措置、ベースとなる職員の給与、そういった財源も全て岡山市

で賄っているわけでありまして。また、先ほど菅野さんから話がありましたけれども、例えば研修をやっていく、学級編制をやっていく、こういったものも全て市でやらせていただいているわけでありまして。そういった面では、教育の分野においては、少なくとも県は県全体を預かるという立場にはないのではないかと私は思っているところでありまして。ちょっと知事の言葉で気になったんで、そこはお話を申し上げたいなと思います。

ちょっと私が今意見を付加させていただきましたけれども、皆さん方、何かございますでしょうか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 では、他にもいろんな話題がありますので、私のほうで総括をさせていただきたいと思っております。

今、知事、県の教育長から、将来意見交換を深めていこうという話をされました。それについては私も大賛成であります。これから切磋琢磨ということで、特に教育委員会レベル、鍵本教育長と菅野教育長の間を中心として、どんどんお互いの実態分析等々の議論を進めていただきたいと思います。

ただ、目標の設定というのは、もちろんそれも議論に含めていただいて結構なんですけれども、案外難しいのではないかなという気もしております。先ほど知事、教育長から、生活実態が違うとは一体何なのか、そこも議論しようという話がありました。それはおっしゃるとおりであります、やはり都市部とでも中山間地というのはそれなりに違いもあり、今回発表された英語の試験の結果なども少し違うところはあるわけでありまして。そういったところをどうやって目標の設定ができるのか、そのあたりも議論していただければいいと思いますけれども、そう簡単にいく話ではないかなと思っております。

そして、先程来の議論の中で、私が申しあげました市の計画、目標と県の計画、目標が両方存在していく。似てるところは確かにあるかもしれませんが。あるとしても、そこはお互い実態、そして考え方が微妙に違うところがあるわけでありまして。それが2つのものが存在していくというのは、現場に混乱を招きかねないと思います。そして、将来的にまた大きな考え方が違う知事、教育長、また市長、教育長という形になったときに收拾がつかなくなってくるということもあるだろうと思います。

ちょっと重なりますけれども、我々としては他の市町村とは少し異なってます。政令指定都市として、法律上の要請だけでなく、目標に向けての研修などの人事権、そして予算

措置、また先生の給与を含む全ての予算を有するなど責任を負っているところでありま
す。目標設定、そして評価など、今後とも私は岡山市だけでやっていきたいと思っている
ところでもあります。

今総括させていただきましたけども、これからいろいろ議題もありますから次に進めさ
せていただいてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 ありがとうございます。

それでは、知事から教育に関するご発言をいただきたいと思います。

○伊原木知事 どうもありがとうございます。私、本当に教育のお話をするのは大好きで
ありまして、気をつけなければいけないのが、教育の話をし出すとすぐ1時間、2時間た
ってしまって、今日の予定にはそんな時間が含まれてませんので、よろしくお願いま
す。

今日、もしお時間があれば、ぜひこれを読んでおいていただくとありがたいと申し上げ
ました。1章の終わりまで読んでいただいたという方。ありがとうございます。私は将棋
が好きなものですから、将棋の本として買って読んでいたんですけども、私が年を取っ
たからなのか、読んでいるうちに涙がぼろぼろ出てきて、多分新幹線の中か、あんま
り泣くと格好よくないところで読んでいたんです。これは本当に教育の本だ、特に1章の
終わりまでには教育の本だなと痛感をしまして、いろんな人に今お薦めしてます。少なく
も私は、これは大事だと思ってお薦めしてます。

教育現場ですべきことは、本当にいっぱいあります。先生方は忙しいですし、これも
知、徳、体それぞれでこれもやってほしい、これもやりたい、こうしたい、あるんですけ
れども、忙しいだけに、仏作って魂入れずになりがちだと思います。この単元を教えた、
これもやることをやった、ここまでちゃんと進んだとか。読んでくださった皆さんはお分
かりのとおり、この瀬川晶司さん、小学生の頃、本当に親としても先生としても多分育て
にくいタイプの子もだったんだと思います。もう自分でもどうしていいかよく分かん
ない。何か意思もよく分かんない。ただ日々過ごしてるだけ。もうつらいところから避ける
だけっていうそういう子どもが、荻間澤大子先生というとても一生懸命な先生に出会うこ
とで、たった1年で何か人格が入れ替わったぐらいの別の人になったぐらい、皆さん
が言われる挑戦できる人間になった。その後はいろいろ、挑戦ですから成功も失敗もある
んですけども。

この中で、ほんのちょっとだけ読ませていただきたいんですけども。

「変わっているところをあげればきりが無いほどだが、荻間澤はほかの先生といちばん違っていたのは、とにかく子どもを褒めたことだろう。どんなに褒めるところがなさそうな子も、何かよいところを見つけ出して褒めた。いや本当は、よいところなど何もなくても褒めていたのかもしれない。というのも、この僕自身が信じられないほど褒められたからだ。ある日の国語の時間、僕は自分で書いた詩を朗読していた。国語は自分としては苦手な科目ではなかったが、それは通知表のがんばろうの数がほかの科目より少ないという程度のことで、自分の作文や詩を褒められたことなどそれまで一度もなかった。ところが僕が詩を朗読し終わると、先生は目を見開いていったのである。何てすてきな詩なの、セガショー。君って、詩の才能があるのね。僕はぽかんとして、先生の顔を見つめた。誰かほかの子のことを褒めているのだろうと思ったほどだった。しかし、先生にセガショーと呼ばれる人間はクラスにこの僕しかいない。残念ながら、そのとき僕がどんな詩を書いたかはもう忘れてしまった。だが、生まれて初めて自分の作品を褒められたときのあの気持ちを、僕は生涯忘れることはないだろう。胸の中を突然、熱い血が通いはじめたようなあの感覚を。」

このときにこの瀬川少年の中に魂が入ったんだと思います。こういう仕事をぜひやって、私自身は知、徳、体のそれぞれどうあるべきかっていうこと、個人の思いはありますけれども、それを教育長に伝えてぜひこれをというつもりはありませんし、そういう立場でもないし理解をしています。県の教育委員の皆さんがいろんな話を聞いてきて、こうなんじゃないか、ああなんじゃないかなという議論、また学校の先生、校長先生から上がってくる話をみんなでまとめて、今こういう問題もあるからこういうことにしよう。これも、岡山市の教育委員会でされているプロセスと非常に似たプロセスを県でもやっていく。ただ、我々とすれば、行政はしっかりその先生方を、この学校を支援しなければいけないと思っています。忙しくて、なかなかきちんと生徒と向き合えないまま、最低限これはしておかなければということを回してることを我々は知らずにいてはいけないし、知って放置してはいけないと思っています。県でできると言っているつもりはありません。この10年間みんなで努力してきて、少しはよくなってきたと思っていますけれども、なかなかそうそう簡単にはいきません。でも、常に努力をするべきだと思っています。

ここにいらっしゃる方は、ここまで劇的な場面があったかどうかは分かりませんが、あの先生にお世話になったよとか、あの苦しいときにあの先生に助けてもらったな

とか、あの先生がいたからあの科目が好きになって、結局大学でもあれを専攻することになったんだよなっていうことで先生の名前が思い浮かぶ方は結構いらっしやると思います。私自身も、私にとっては中2のときの担任の英語の女性の先生、藤森先生がその先生でありまして、もう本当に学校にも行きたくない、もうやる気も出ないという、何をしても、おまえのところは金持ちだからといって全く自分の努力と認めていただけない、私の人徳もあったんだと思うんですけども、そういうときに私の悩みを理解してくださって話を聞いてくれて、1冊本を提示していただいた。それで私は人生が変わりました。それはアメリカのビジネススクールに関する本なんです。今の世界で居心地が悪いんだったら、もっと外の世界を見なさいと。どうせ外の世界を見るんだったら、できるだけ高く上を目指してみなさいと。できるかどうか分かんないけど、目指してみなさいっていうこと。英語の先生ということもあったんでしょう。世界中で一番自信のある人たちが集まるところに行けるかどうか、そこでやっていけるかどうか、試してみなさいとおっしゃっていただいて、できたかどうかは別として、そこから全く変わってしまって、何かちょっと悪口を言われたりけなされたりするとふにゃっとなっていたのが、それ以降随分頑張れるようになった。これは県で言う夢育に相当するのかなというふうに思いますし、皆様方が一生懸命つくられたこの樹人というものを読んでも、非常にこの思いが重なる部分があるなど思った次第でございます。

最後に、私自身、教育を最初の10年前の選挙から県政の一丁目一番地に置いております。理由はいろいろあるんですけども、一言で言うと、この極端な2つのシナリオを考えてください。1つの極端なシナリオは、教育だけはできたと。優秀でやる気のある若者と大人が地域にいます。ただ、それ以外全て失敗をして、もう家も生産設備も防災設備も何にもない。非常に極端なシナリオ。もう一つ、全く逆のシナリオ。これは、ほかのことが全部うまくいって、もう町はきれいだし、資源はあるし、資産はあるし、こんな夢みたいなことが全部実現したのに人材だけひどいことになっている。もう全く愕然とするようなわがままな大人たちが日々文句を言っているだけの状態。さあ、どっちがいいでしょうというときに、私は前のほうがまだましだと思っています。人材以外全部駄目っていうのは戦後の日本、太平洋戦争直後の日本だと思っています。もう家は焼かれ、工場も全く機能していない、資源はない。さあ、どうするんだというところでも、やる気のある教育のある人たちが何とか立て直すことはできた。これは運がよかったところもあるかもしれませんが、これはもうまさに人材の意思の力です。その逆は、金持ちの子どもが会社

を潰すとか家庭を壊すというよくあるパターンなんです。

ですから、私は、とにかく教育が一番力を入れる価値があるものであって、県が力を入れたから必ずうまくいくかどうかは別として、とにかく常に我々は教育現場を支援しなければいけない。これは、これからもずっと言い続けていくつもりであります。これを皆様方の前でお話しできた。本当にうれしく思います。どうぞよろしくをお願いします。

○市長 ありがとうございます。

鍵本さん、お願いいたします。

○鍵本教育長 私からは結構です。

○市長 結構ですか。分かりました。

ありがとうございます。「泣き虫しよったんの奇跡」。私でも褒めてもらえるかなと思いましたが、思いましたけども。

○伊原木知事 いっぱいあると思いますよ、はい。

○市長 今の知事のお話に対して何かございましたらお願いします。この話は一言ずつぐらい聞いていきますかね。

ベテランの片山さんのほうから行きましょうか。

○片山教育委員 それでは、失礼いたします。

今日はどうもありがとうございます。私もしよったんを読ませていただいて、やっぱりいい先生との出会ってというのはとても大きいなということは感じました。本当に子どもたちの日々に先生たちが寄り添ってくださることってというのは一保護者としましても非常にありがたいことで、特に自己を磨いて、そして選択と挑戦を繰り返すための岡山市が目指す子ども像については、不安とか恐怖が非常に大きい中で、やっぱり先生が、出会った先生、しよったんは5年生でしたけれども、どの時期にもいろんな方々に見守ってもらえるっていう安心感があるからこそ選択と挑戦が繰り返されることにつながるだろうということを感じました。

以上です。ありがとうございます。

○市長 ありがとうございます。

じゃあ、石井さん、お願いします。

○石井教育委員 ありがとうございます。

今、岡山県も岡山市も学力の向上をテーマに掲げて取組をしていますけれども、それが旧来型の狭い範囲の学力ということだけではなく、生きる力だとか、岡山市の挑戦する力

ということも含めて、知事のお考えもそこに近いところにあるんだなというところを改めて私は感じました。それに加えて、今学力向上にフォーカスが当たっていく中で、それがフォーカスされるがゆえに生きにくさを感じる子とか不登校になりそうな子がもしかしたらいるのかもしれないというところに対してしっかりとフォローをしていく、そういう子たちも頑張っただけでさらに再挑戦をしていくことができるというようなことにつながっていくようなお話だったのではないかなというふうに感じております。ありがとうございます。

○市長 どうもありがとうございました。

それでは、河内さん、お願いいたします。

○河内教育委員 感動的な書籍のご紹介をありがとうございました。教育の原点のようなお話をいただいて、本当に子どもたちの人生に奇跡をもたらすような大きな力というのが教育にはあるんだなということを改めてかみしめたところです。ありがとうございます。

実は私も、私はといいますか、長年小学校の教員を務めてまいりました。ご紹介いただいたような先生の足元にも及ばなかったというふうに思いますけれども、私も子どものほんの小さなよいこととか、それから頑張ったことを見逃さずに褒めることってというのが大切だと信じて、たくさん褒めてきたように思います。そのことが子どもの自信や変容につながっていた成果というのもいっぱい感じてきました。ただ、この年になって振り返ってみたときに、逆に褒められなければ、何か人の評価が気になって、それでありのままの自分というものを認められないということにしてしまったのかなという心配も生じてきます。でも、このお話に出てきた先生というのはきっと、できたとか成功したとかそういうことだけではなくて、その子の持ち味というようなこともしっかり褒めていって、本当に子どもが育ったんじゃないかなと。そういうことを思ったら、やはりこの褒め方というのも、自分がありのままでいいんだと思えるような褒め方、深い関わり方、そういうことができる先生方をどんどん増やしていけたらなというふうに感じました。ありがとうございます。

○市長 どうもありがとうございました。

それでは、上西さん、お願いいたします。

○上西教育委員 上西です。

私、弁護士なんですけど、先週、事務所で執務時間中に一気に読ませてもらいました、最終章まで。途中主人公が司法試験を始めてどうしようかなと思ったんですけど、ちゃんと

修正されて正しい道に行かれたのはちょっとほっとしましたけども、本当に作品として非常に面白くて、涙が出る場面も私もございました。学校の先生との出会いがきっかけですが、結局はメンタルというか心のもちよう、自信と言ってもいいかもしれません、そういうものがその人の振る舞いであるとかその後に関して非常に重要な意味をもつということ非常に再認識させられたということで、そういうものに影響を与え得る立場に教員の方はいるんだということが非常によく分かって、私の周りにもこれを紹介したいと思いますので、どうもありがとうございました。

○市長 それでは、高山さん。

○高山小学校長会長 すいません、失礼します。

私は長い間教育現場で、小学校の教育現場でたくさん子どもたちに出会ってきたのですが、このお話を読ませていただいて、教育の原点のようなところが非常にうかがえて、子どもたちはそれぞれ様々な家庭環境の中で育っていると思うんです。ですけど、どの子ども、勉強とかすると分かっていたいとか、例えば鉄棒とかいろいろそういう技能でもできるようになりたいとか、それからまた、一方で能力的な部分もありますからなかなかそううまくいかないこともあるんですけど、認められたいとかそういうのが、長年やっていて本当に身にしみるような経験を何度もしたことがあります。それで、例えば私も縄跳びとか一緒に指導すると、なかなかこれが難しいですね。跳ぶリズムと手を回すのが合わない駄目なんですよね。ここはなかなか難しいんですけど、1年生の子や2年生の子と一緒にやっていると、手とり足とりやっていると、あるときできるようになったりするんですよね。そしたら、子どもたちが見て見て見てって、こっちで見てみたんだからこっちの子がまた見て見てというような。そういうのを見ていると、教育の現場で私、そこに携わらせてもらっていることが、その子のそういった経験がずっと恐らく先々エネルギーになっているだろうと思うんですね。そういう経験を、子どもは様々なんですけど、一つでもたくさん経験させたり、それからこういうことができる、分かるばかりではなくて、その子のよさみたいなのがありますよね。本当にそっと頼んだようなことでもさっとやってくれたり、そういうような子がいます。誠実な子がね。そういう子どもたちのよさっていうのを認めていくことで、次に生き方とか、大げさに言えば、そういうとこにつながっているなということを感じます。

このお話を読んでいて、そういう一つの出会いだったのかなということを非常に私自身も改めて感じて、また現場に向き合わなきゃいけないなという気がしました。ありがとう

ございました。

○市長 それでは、長瀬さん、お願いいたします。

○長瀬中学校長会長 私、実は現任校にいる前は小学校の校長をしておりまして、9年間子どもたちを眺めてきました。どの子も、年齢は変わって表現方法は異なりますが、認めてもらいたい、褒めてもらいたいという承認欲求をもっています。ただ、むやみに褒めていても子どもは成長しません。やっぱりその子の個性を見極めて、その個性に当たる部分にしっかりフォーカスして承認してあげるっていうことが大事なんだろうな、教師にはそういう深い児童・生徒理解がまず大前提として必要だろうということをこの本を読んで改めて感じました。

また、岡山市が掲げる5つの力の中の向上心、まさにこの子は向上心を発揮したんですけど、このエンジンは、私は自己有用感、自尊感情とよく言われるんですが、私はよく学校現場で自己有用感って話をします。学校の中で、社会の中で自分は役立っているんだ、自分の関わりが相手にいろんな影響を与えているんだっていう喜びを感じたときに、それが向上心のエンジンになるというふうに感じています。そのエンジンを得るためにどういうふうにして自己有用感を育てていくかというのが今学校に問われているんだろうなということをこの本を読んで改めて感じました。

以上です。

○市長 ありがとうございます。「泣き虫しょったんの奇跡」、素晴らしい本のご紹介ありがとうございました。

それでは、時間の関係もありますので、岡山市の教育委員会で用意していただいている資料がございます。

教育長のほうから説明をお願いします。

○菅野教育長 それでは、今後の教育の方向性ということで資料を用意しております。2枚物の資料でございますが、これを基に私のほうから岡山市の教育の方向性と取組状況についてお話をさせていただきます。

第2期教育大綱策定の際には、総合教育会議で繰り返し議論を行い、予測困難で変化の激しい社会の中で、子ども一人一人が将来それぞれの立場で社会に貢献し、自他の幸せを創造することを目指すという子どもの将来像、また我々の使命である人材育成を盛り込み、昨年度から具体的な取組を始めているところであります。

まず、資料左側の青色部分、4つの指標と、中央の緑色部分、基礎としての2つの目標

をご覧ください。

昨年度は、ここに掲載しました成果と方向性を基に、総合教育会議でご意見をいただきました。ご意見としましては、理由が書けないというのは探究的な学習が十分でないからではないか、また不登校につきましては、勉強と併せて居場所をつくることが大切ではないか、表現力や社会性が求められると逆に取り残される子どもが際立つ可能性もある、子ども一人一人に応じた支援も大切ではないか、自分が興味、関心をもっていること、意見が認められること、探究することなどを通して個が育つとともに、自分のよさを知っていくことにもつながっていくのではないかなどでありました。

こうしたご意見を基に、教育委員会では令和4年度、資料右側に重点的に取り組んでいく事業を4点掲載しております。1つ目は、子どもが自分の考えや理由を説明することに力点を置いた魅力ある授業づくり推進事業であります。2つ目は、個々の課題に応じた支援を中心とした問題行動等の防止及び解決に向けた総合支援事業であります。3つ目は、計画的かつ系統的に情報活用能力の育成を図るGIGAスクール構想によるICT活用支援事業であります。最後、4つ目は、地域住民の協力によります学習支援等を行う地域と学校協働活動推進事業であります。

今後も、校長会とも連携をしながら、自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子どもの育成に向け、責任をもって取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○市長 どうもありがとうございました。

小・中学校の実態を含めてもう少し話をさせていただいて、そのあと教育委員の皆さん方にお話をいただければと思います。

では、長瀬さんからお願いします。

○長瀬中学校長会長 この教育委員会が掲げる、市長と一緒につくってくださった大綱に基づいて、5つの力の中でどういうふう育てていくかというのは学校ごとに違うんですが、具体的な例を言いますと、今、年度ごとの間隔ではなく、どの学校も3年間を見通した教育というのを考えています。その流れの中でSDGsあるいはESDという考え方が今学校の中に浸透していて、例えば、この子たちが問題解決、課題解決をしていく最終ゴールを修学旅行に置いて何ができるかという3年間を見通す、そういう教育が今進み始めているかなということを感じています。当然課題解決の力をつけるためには、しっかりと自分の意見を表現したり、それからいろいろな物事、知識、理解を活用していくっていう

ことも必要ですし、先ほども申し上げましたが、自己有用感、自分が社会のために何か役立つというような向上心のエンジンとなる自己有用感を育てる、そしてベースになる共に生きていこうという人権尊重の精神、ここに掲げられている5つの力がそのSDGsにはぴったりマッチしているのかなど。そういうことで多くの学校でそういう3年間を見通した教育が生まれているかなどというのを感じています。

それから、併せてクロームブックをどう活用していくかっていうことは、今大きな課題になっています。なかなか自己表現のできない子が、クロームブックの中では自己表現ができる。独り学びの場面で使えるっていう機器としての有効性。それから、例えばその中にはクラスルームとかジャムボードといわれるような機能を使って学び合いの場면을効率的に行っていく。今までですと子どもの意見を全部教員が板書をしていたりしたんですけども、その時間を短縮することによって、みんなの意見を一度に一つの画面に出すことでお互いの学び合いの時間がしっかり担保できる。そういったクロームブックの活用ということも今後しっかり考えながら、学びの改革をしていく必要があるんじゃないかなっていうことを中学校では特に考えています。

そして、もう一つ忘れてはならないのは、働き方改革です。特に中学校では部活動をどうしていくかということを経長会では年間のテーマとして考えていこうということを経掲げていまして、中学校長会のほうでも少しテーマ設定をしながら、何か月かをかけて校長研修会の中で部活動の在り方を含めた働き方改革、そのための特別委員会等も設置してはどうかなというような意見が出ていて、やはり元気な先生が元気な学校をつくっていく、その中で元気な子どもたちが育っていくっていう好循環をつくっていく。教員の側も、それから子どもの側も、家庭、地域も、しっかり元気になっていくことを目指していきたいな、そんな取組を今始めているというところだと思います。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

では、高山さん、お願いいたします。

○高山小学校長会長 失礼します。

私は小学校長会の取組を教育委員会との併せての部分についてちょっと紹介したいと思っております。

岡山市は今小学校が86校あるんですが、その86校の小学校長が集まって研修会を校長会が主催して年に9回、それから市の教育委員会が3回ということで、そういう研修会

をまず毎月のように開いております。その中で小学校教育の充実、発展のために研究を深めていくということでやっております。その場に教育委員会の事務局の方も当然来られて、いろいろと伝達するだけではなくて、協議をしたりというようなこともして、よりいいところを探っているということなんです、時には市長が来られたり、それから教育長も来ていただいてお話もしていただいているというようなことがあります。

それからまた、もう一方、年9回、実は合同研修会というのをやっております。これは、隣におられる長瀬会長、中学校長会の会長と、それから幼稚園、こども園の園長の代表と私どもが、今の教育の課題、それから教育施策に対して、こういうところを考えてもらいたいなというようなことをかなり協議します。これを協議したものを年に9回、教育委員会の幹部、次長、部長、各担当課長とやり取りをしながら、協議を重ねながら、教育の方向性、目標を探っているといったことがあります。

これはもうずっと岡山市ではされてることとして、委員会側の一方的な提案ではなくて、我々現場の実態だとかをしっかりと吸い上げていただいて、そして共によいものをつくり上げていくようなシステムとして大変ありがたいものだと私は思っています。ここに載ってるのはまさに教育大綱のこのことだと思うんですが、教育大綱についても、校長会と教育委員会が直接協議しながら、策定してきたものと私は考えています。

校長会の研究組織というのがあるんですが、6つの委員会に分かれている中で、例えば、学校経営委員会というのがあるんですが、そこでは研修テーマが岡山市教育大綱、ちょうどこれはここで改訂になりましたから、改訂期の学校経営理論の在り方というようなものをテーマにしたりとか、それからまた教育課程研究委員会のほうでは第2期岡山市教育大綱で位置づけられたこの5つの力を育むための教育課程編成における学校側の仕掛けというようなことをテーマにしたりするなどして、岡山市教育大綱を我々校長がしっかりと理解して、その実現に向けてしっかりと取り組んでいるところです。

私の吉備小学校のことですが、吉備小学校でも教育大綱自体をしっかりと職員に掲げながら、岡山市は5つの育む力があって、それは4つのここに書いたような指標で測っているんだよというようなこと。これはまた岡山市の総合調査の中にもこういう指標を入れてしっかりと学校評価をしていかないといけないことなので、そういうあたりは教育委員会のほうにこちら側からきちっとそこは入れてほしいと、各校全部違っているような評価をしたんでは全くおかしなことになるのではというようなことを申し上げたり、それから2つの目標というのが学力の問題と、もう一つは大都市特有の不登校の問題ですよね。これは

なかなか厳しい問題だと私も捉えています。このあたりについては、一方で学力と背中合わせの部分もありますよね。そのあたりをしっかりと職員に示しながら共通理解をして、こういったとこで取り組もうということでやっている次第です。

すいません。長くなりました。以上です。

○市長 それぞれの校長会、本当に真摯な議論をしていただきましてありがとうございます。

それでは、今教育長、小・中学校の校長会の会長がご発言されましたが、委員の皆様方、一言ずつ言っていただければと思います。

まずは、上西さんからお願いします。

○上西教育委員 はい。いろいろ教えていただきましてありがとうございます。

私は子どもが小学校に2人通っておりまして、先生方は本当に頑張って、僕が子どもの頃と比べて、本当にきめ細やかにいろいろ指示をして指導をしていただいているなと思っていますが、先ほど働き方の関係で少しご発言がありましたが、こんなにやっていて先生方は大丈夫なんだろうかっていうふうに親としても感じるころでありまして、先ほど部活動の話がされたと思うんです。現場とか学校で今後の在り方とかそういうものがどのような方向でどういう議論がされているのか、もし差し支えなければ少し教えていただきたいなと思って、質問させていただきたいんですが、よろしいでしょうか。

○長瀬中学校長会会長 議論が始まったばかりですのでどうなるか分かりませんが、今までは割と熱意が先行して、もう時間も無視して、休日も無視してやることに部活の意義がある、あるいは勝つことが大事なんだというような勝利至上主義的な部分が確かにあったかと思いますが、やっぱりこれから科学的なトレーニングが言われている中で、時間を限っていかに効率的に部活動をやり、早く職員室に戻って、自分たちが次の授業に向けての研究をしたり、気になる子どもたちの情報交換をしたり、できるだけ早く職員室に帰って子どもたちの様子を語ろう、授業について語ろうということを行っていますので、そういう意味合いの中で、部活動をなくすという意味じゃなく、いかにスリム化、効率化していくかということこれから検討していきたいなというふうに思っています。

以上です。

○市長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは、河内さん、お願いします。

○河内教育委員 先ほど教育長からご説明いただきましたこの資料の不登校の推移を見な

がら、常々心を痛めているところです。全国的にも不登校児童・生徒は増加の一途をたどっておりまして。岡山市も小学校と中学校で実態の差があるものの、やはり大きな課題だと思っております。また、不登校の要因を見てみると、学校生活においては対人関係、学業不振が多く上げられています。

ところで、岡山市は、基盤としての2つの目標、この中央のところにある2つの目標を掲げています。1つは全国平均レベル以上の学力、2つ目は新規不登校児童・生徒の減少。これらは一見別物のように見えますが、教育の基盤というものにおいては強いつながりがあるものだというふうに思います。先ほど高山会長もおっしゃいました。不登校の要因の対人関係や学力不振というのは、学力向上を目指す授業の中で同時に育んでいくべきものだというふうに思うからです。子どもたちは、人との関係性の中で育っていくと思いません。親と子ども、先生と子ども、そして子どもたち同士、また地域の方と子どもたち。その中で分からないことが分からないと言える関係性、間違いや失敗を許し合ったり励まし合ったりする関係性、そうしたことが大切にされてこそ、議論し合う活動の質の向上ですとか、それから個に応じた指導というものが充実していくんじゃないのかなと。それがどういう形かで共有できるようなものがないのかなというふうに考えています。ひいてはそうしたことをしっかり議論する中で、学力向上や新規不登校児童・生徒の減少になっていくのではないかなというふうに思います。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

それでは、石井さん、お願いします。

○石井教育委員 はい。コロナの状況とかウクライナの状況とかそういう状況で、より予測困難で、変化の激しさというのを日々実感するような状況において、今回教育大綱の中で設定したこのテーマというのが、社会人として生きてる中でも刺さってくる。この国全体が、もしかしたら経済的に相対的に弱くなっていくかもしれない。今までは国がどんどん経済的に豊かだったから、個人の生きる力が弱くても何とか生きてた部分があったかもしれないけども、なかなか相対的に力が弱くなっていくと、それぞれが自分の生きる道っていうのをきちっと見つけていかなければいけないっていうのを社会の中で生きてるとすごく実感しています。だから、そういう危機感を強くする中で、先生方がこのテーマを大事に考えていただいて、子どもたちに伝えていただけてるっていうのは非常にありがたいことだなというふうに思っています。

そういう中で、子どもに直接的なアプローチとしての力、生きる力、挑戦する力をつけるという取組は様々な角度からたくさんやっていたらいいと思ってるんですけども、それ以外に間接的なアプローチってないのかなというふうに思ってます。そういう意味で入口と出口という視点で見ると、一生懸命子どもを育てていくんですけども、最終的に出口のところで優秀な育った子どもたちがみんな東京に吸い取られて、何世代にもわたって出て行ってしまおうというそういうことは、国全体で今まで見たらすごいよかったことは多々あって、効率的だったと思うんですけども、本当に今後それがいいことなのかなというふうに思ってます、そこの部分で岡山に住める人たちが最後、出口のところに何かいいポイントが見つからないのかなというふうに感じております。

それから、もう一つ、入口という面でいうと、先生方に頼る部分が非常に大きくて、親は親になる教育ってどこでも受けたことがないので、親になる教育をどこかで受けれる権利ってもらえないのかなというのを強く感じてます。そこで何かそういう親としての勉強ができる機会があれば、間接的に親が勉強して、その子どもとの結びつきが強くなれる機会っていうのを何とかもたせてもらって、そういうことで間接的に子どもたちにいい影響が、本来的には親は直接的だと思うんですけども、間接的なアプローチっていうのが考えられないかなというふうに考えてます。以上です。

○市長 ありがとうございます。

片山さん、お願いします。

○片山教育委員 失礼いたします。

いろいろ聞かせていただく中で、本当にまずはこのコロナ禍、いろいろ大変だった中で、我が子も含めてですけども、改めて親としても学校という場のありがたさというのがとても身にしみた機会だったと思います。やはり学校へ行けない時期というのもありまして、我が子と向き合う中で、親としてはやはり学力というのはちゃんと大丈夫なんだろうとか、また学校へ戻ったときにちゃんとやっつけられるんだろうかというのが非常に不安だったと思うんですけども、令和3年度、学力もきちんと身につけていただいていますし、そしてさらに部活であるとかいろいろ生活がまた始まったときにも速やかに子どもたちが学校に向かっていけるような環境をつくっていただけて、本当にありがたかったと思います。それもひとえに、先ほど校長先生方が教えてくださったように、校長先生方も対面で何度もお会いになったり、さらに就学前から中学校の義務教育の終わりまでを含めて縦断的に先生方が連携をしてくださっているっていうのがとても密であるということ、

そこが子どもたちが安心して学校集団に帰っていった一つの大きな要因なんだろうなという
ことを改めて感じさせていただきました。

特にこういった時代の中で、集団の中で自分を生かすこと、そして個を見ていただくこ
とってというのはとっても大事な中で、不登校のお子さんも含めて、やはり自分が認めても
らえることとか、それから小学校から中学校に移行したときに、あるいは幼稚園から小学
校へ移行したときに段差がある中で、その段差も実は育ちの可能性につながる部分もあり
ながらも、そこで戸惑ったり、それから親から発信していかないとなかなかその状況を読
み取っていただけないんじゃないかっていう不安もあると思うんですけども、そんな中
で一貫して同じ目標に沿って、先生方がどの学校種においても、共有してくださるって
いうのは、子どもにとっても親にとっても、その学校種は変わっても、ある一貫した流れで
見守ってもらえるっていうのはとてもありがたいし、生きやすく育ちやすくなるんじやな
いかなというふうに感じました。

岡山型一貫教育ってとても重要な視点だと思いますし、そこをさらにコロナが終わっ
て、また対面で先生方も協議をされる機会も多くなると思いますので、教育委員のほうに
もそういった授業を見る機会を提供して下さっているんですけど、またそういう日が今
年度戻ってきますことを心より楽しみにしております。

以上です。

○市長 ありがとうございます。

本日はせっかく知事また鍵本教育長にもお越しいただいておりますので、今岡山市の総
合教育会議の関係者からお話がありました何かお気づきの点等、参考になることがあれば
お話をいただきたいと思います。

では、まず知事から。

○伊原木知事 本当に大変いい勉強をさせていただきました。改めてですけども、この
ような機会をいただきまして本当にありがとうございます。

岡山県の教育委員会も、この多様性をそれぞれの地域、それぞれの皆さんの声を満遍
なくすくい取れるように工夫しているつもりです。そのときに当然性別というものもあるわけ
ですし、地域っていうのも非常に重視をしています。議論を聞かせていただいている、そ
れぞれ、弁護士さんでいらっしゃるですとか、独特のバックグラウンドをもっている方が
非常に突っ込んだご意見を交わされていて、本当に参考になりました。我々自身も、何か
今日見せていただいたことで参考になること、また小学校、中学校の先生の代表が出席を

される、我々も時々やってるんですけども、やっぱりこの議論が活性化するなっていうことを改めて感じたところでございます。随分議論されている中身ですとか問題意識については共通するところもあるな、これだけしっかり具体的に一生懸命議論がされてるっていうのは本当に頼もしく思っています。ぜひ県の教育委員の皆さんともこれからどうぞよろしくお願いします。ありがとうございます。

○市長 ありがとうございます。

では、鍵本さん、お願いします。

○鍵本教育長 ありがとうございます。

知事もお話しになりましたけど、本当に貴重な機会を与えていただいて、大変勉強になりました。岡山市の取組について、承知をしていたつもりでありますけど、今日はまたさらに詳細によく理解することができました。特に学力調査の結果分析を丁寧にされまして、それを授業改善につなげておられる点。あるいは不登校につきましても、子どもたちへの相談支援体制をしっかり充実させるよう、特にスクールカウンセラーの活用等に力を入れておられる点。それから、何よりも先ほどのお話の中で他者と協力する力でありますとか、あるいは人を大切にする思いやりの心というところもこの4つの指標の中に出てまいりますけども、我々でも、先ほど知事もちょっと言いましたけど、夢育ってという言葉で言ってるんですが、非認知能力がやっぱりこれから重要になってくるだろうと。基盤となる2つの目標を挙げてますが、学力やそれから不登校も当然減らしていかなきゃいけないんですけども、そういったことも非認知能力の育成というところも取り組んでいるところでいて、まさに私どもと同じ問題意識をおもちになられて、そして政令市として独自の施策を進められておって、しかも効果を上げられておられるということが本当によく分かりました。

これからは、岡山市の取組のすばらしいところは率直に我々も学ばせていただきまして、一緒に取り組めるところは力を合わせてやらせていただいて、何よりも岡山の子どもたちのためでありますので、一緒に努力してまいりたいというふうに考えております。引き続きどうぞよろしく願いをいたします。ありがとうございました。

○市長 どうもありがとうございました。

それでは、教育長、お願いいたします。

○菅野教育長 はい。今日は、本当に様々な立場から様々なご意見をいただいたことにまず感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

今日は何かに絞って議論をしたということではなくて、本当にいろんな意見が出てまいりましたので、私も今この場においてどうまとめようかなというふうに思っておるんですけども。市長は岡山市の校長会に来られて何度も言われるのが、私は本当にいい先生に恵まれたんだと、中学校のときにこうだった、小学校のときにこうだったというお話をしてください。これを聞いて、校長先生方でうれしくない人はいないんじゃないかなというふうに思います。私ももともと小学校の教員ですから、教員をしていて、実はこの子は私がやったことをきくと覚えて、いい先生だと思ってくれているだろうとか勝手に思うこともあるんですが、意外とそうでもなくて、そんなに気にしてなくて、普通どおり先生の仕事をしているけども、菅野先生でよかったみたいなことを言ってくれる子どももいるわけで、何がいいのかというのは私は分からないんですけども、ただ私は教員が一生懸命子どもに向き合う、子どものことを一生懸命考えているんだ、例えば鉄棒の逆上がりができなかったら逆上りをしっかり教えて何とかできるようにする、そういう情熱とか先生の熱意というのが一番大切なんだろうなと。そういうことの毎日の繰り返しが子ども一人一人の力を上げていくんだらうなというのをいつも思っています。そういう中で、市長がいつも言われる、先生たち、実はいい先生に巡り会ったというのは、先生たちにエールを送ってくださってるんだらうなというふうに思っている次第です。

それから、いろんな方のお話を聞く中で、今実はいろんな社会の場が二極化が進んでいるんだらうなと思います。貧困の問題もありますが、学力の問題もそうだと思うんです。何とかこれは教育の世界では二極化を食い止めたいなと。みんなが自己実現できる、この岡山市の大綱にあるように、選択と挑戦を繰り返して、本当に自分の、県でいえば夢育にもつながるかもしれないけど、自分のやりたいこと、夢を実現できる、そういった子どもを育てていきたいなと。つまり何か二極化が進んで、片方の極はどんどんどんどん夢がしぼんできてうまくいかないということにならないように、我々もしっかり力を入れていかないといけないなというふうに思います。その我々ができる一番大きなことは、やはり授業づくりだろうと。授業が学校の全てであるというふうに思います。まとまってませんが、以上でございます。

○市長 どうもありがとうございました。

最後、私でよろしいでしょうか。何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 では、最後、締めさせていただきます。

今回は、我々第2期の大綱を今動かしているところであります。実は1期目の大綱のときに、相当時間をかけて徹底的なディスカッションをしました。長瀬さんはそのときの教育委員会のメンバーだったような記憶がありますけれども。実は例えば学力にしても、偏差値48になってます。そして、記述式の問題、国語の形式の問題は、無解答が全国平均の倍以上ある。算数、数学も、問題が記述式の場合に答えが書かれてないケースがある。どうしてか。岡山市の子どもだけができないのか。そんなわけがない。先生が適切な指導を行ってないのか、真面目にやってないのか。いろいろな先生にお会いしました。非常に真面目な先生です。何が問題なんだというのを徹底的に議論し、やはり若い先生が多いということも一つあったんですけども、今最後に菅野さんがおっしゃった授業づくりがうまくできてない。では、なぜできてないかということなんです。若い先生がやはり経験もないんで、どう授業をつくっていいかがよく分からなかった。では、どうやったらいい授業づくりができるんだということで、ベテランの先生、校長が授業をずっと見てもらうようにした。そして、教育委員会の菅野教育長、奥橋教育次長でありますけれども、指導課長が各学校をずっと回っていく。それも定期的に何度も何度も回っていく。こういうことをやることによって、先ほど見ていただいたようにほぼ平均まで来ました。我々は、少なくとも学力テストで点数が高いということを望んでるわけではありません。将来いろいろものを考えるときに、考える基礎知識、基礎の考えができるようなそういう能力か、こういうものは身につけてもらいたいということでここまで来たわけでありまして。

これからは違うんじゃないかということがこの教育委員会の、今日上西さんは初めてお越しでありますけれども、これからは今までと同じようにやってはならないというふうに我々は判断したわけでありまして。そして、ここの最初に書いてますように、自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども、こういった子どもをつくっていいこうではないかと。よく分からない時代になってます。いつも言われるのかも分かりませんが、ただ高度経済成長期とは違ってくる。先ほど石井さんがおっしゃったような時代背景の中に、何をやっていいか、子どもたちも分からない。先生も分からない。親も分からない。したがって、失敗したっていいじゃないかと。トライアンドエラーをどんどん行っていく、そういったことができる子どもたちを我々は育成していこうということで幾つかの指標を用意しました。指標をつくるに当たっては、まず定量的につくらなければならないということでありましてけれども、実は定量的な指標をつくと同時に、学校側に生活実態、これも岡山市内でも違います。学校によって変わってきます。したがって、各学校にある

程度お任せしてます。お任せしてる部分はお任せしてる。独自の指標をつくったり、そして評価をしたりする学校が多いわけであります。私は、それはすばらしいことだというように思っているところであります。今それぞれその過程の中にいるわけですが、一歩一歩、私は前に向いているのではないかなというように思います。

今日は、知事、教育長に来ていただきました。我々の申し上げていた、県の計画、目標の中から岡山市分を除外してほしいというところの合意はできませんでしたが、お互いが切磋琢磨して、よりお互いの教育水準が上がり、子どもたちが成長できる、そういった素地はできたんじゃないかなというように思っております。そういう意味で今日、伊原木知事、また鍵本教育長、わざわざお越しいただきましてありがとうございました。これからもお互い議論を交わしながら、いい子どもたちをつくっていければと思います。よろしくをお願いします。ありがとうございました。

以上で終わります。マイクを事務局に返します。

○司会 ありがとうございました。

次回の会議は、改めて通知させていただきます。

以上で令和4年度第1回総合教育会議を閉会します。

本日はどうもお疲れさまでした。

○市長 どうもありがとうございました。

午後4時53分 閉会